

第11回「ハンガリー旅の思い出」2014年コンテスト作品

阿部一雄さんの作品

ブダペストを観光して

現役を引退して、時間のゆとりが出来たので、毎年一回、8日から10日程の日程で、ビール好きの妻と二人で、ヨーロッパを訪れて、中世の名残を残す城、教会、旧市街の街並みや名物、地ビール等を楽しんで6年目に入った。

この間、ブダペストには2回訪れているが、今年も11月中旬から三回目となるブダペストを訪れる予定をしている、今回は時期的にクリスマスマーケットも楽しみのひとつで、今から楽しみにしている。

ブダペストは街の真ん中を大河ドナウ川が流れ、ブダ地区とペスト地区とに街を二分している、最初に訪れた時はペスト地区のポラーロシュ・テール駅の近くにホテルをとり、早朝のドナウ川岸を散歩し日本では見ない野鳥が船を係留しているモヤイローブにとまり羽を休めているのに出会ったり、川幅の広い大河、ドナウ川を流れる水量の多さにもびっくり、静に大量の水の流れに感動した

早朝で人影の少ない静かな中世の街の様な中で、厳かな大きな教会に出会ったり、その近くの古いビルの一角で小さな果物店の開店準備で品物を並べているのを見つけたり、路面電車(トラム)が行き来する大通りを渡り、細い路地を通りホテルへ戻る途中で小さな食品雑貨のお店を覗いたり楽しい下町のホテル界隈の清々しい早朝の散歩でした。

2回目に訪れた去年は、マーチャーシュ教会と漁夫の砦に隣接する「ヒルトンブダペスト」ホテルに宿泊した。「ヒルトンブダペスト」は観光に地の利を得たホテルで、王宮、漁夫の砦、マーチャーシュ教会、旧市街観光には徒歩で十分で、「漁夫の砦」や「王宮の丘」からドナウの真珠と称されるライトアップされた「国会議事堂」や「クサリ橋」などペスト地区の美しい夜景を鑑賞するベストポジションでした。



早朝の漁夫の砦は、人影も少なくひとり占めして、気持ちよく写真撮影を楽しみました。

ペスト地区から王宮の丘へは、クサリ橋を渡り、橋の目の前から出ている「ケーブルカー」で上がるのが楽しい。

このケーブルカーは古式ゆかしい木製で、急坂を登るので斜面に合わせて客室は三段の階段状に作られ、各段は壁で仕切られて、個々にドアが付いた個室となっていて、3~5人で満員という小さな可愛いケーブルカーで、登る途中でドナウ川に掛かるクサリ橋とペスト地区の景観が眺望できて、楽しく思い出に残る乗車でした。私のお気に入りポイントの一つです。

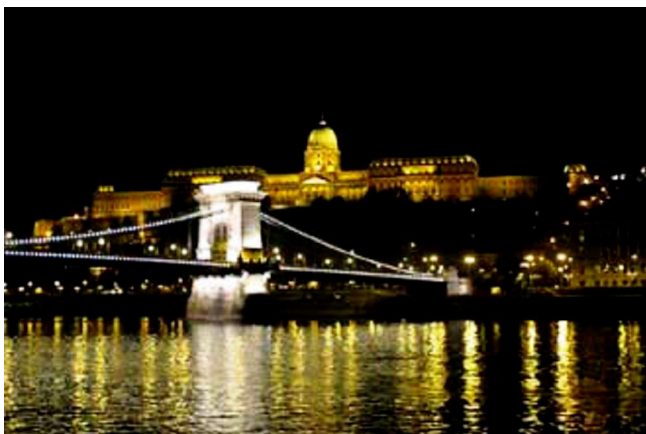


王宮の丘では、ラッキーにも衛兵の交代式に遭遇して交代儀式を見物し、西の丘の空を真っ赤に染めて沈む夕日を愛で、ケーブルカー頂上駅の脇の展望台からは、点燈ライトアップされて美しい姿が浮びあがった、ドナウ川に掛かるクサリ橋や国会議事堂の眺望も素晴らしく、うっとり眺め写真に収めたブダペストは「ドナウの宝石」とも言われ、歴史ある観光名所に富んだ美しい街でした。



ブダ地区にある「ゲッレールトの丘」は、ドナウ川を挟んで左側に王宮、漁夫の砦、マーチャーシュ教会、などのブダ地区が眺められ、右側に国会議事堂、聖イシュートバーン教会などのペスト地区が眺められ、ドナウ川に掛かる「クサリ橋」など歴史ある数本の橋を含めてブダペストが一望できるこの「ゲッレールトの丘」からは、ライトアップされた「ドナウの真珠」の夜景の眺望も素晴らしかった。

初めてブダペストを訪れた時は、ドナウ川ナイトクルーズで美しい夜景に感激した、ドナウ川に掛かるクサリ橋や国会議事堂、漁夫の砦、王宮、等等、ライトアップされた観光名所の景観が素晴らしく、何回も訪れる魅力のひとつになっています。





観光名所巡りに疲れたら、ブルシュマルティ広場に面した、王妃エリザベート(シシ)が愛したカフェ「ジェルボー」で、シシカフェ(エスプレッソに杏のリキュールを垂らし生クリームを載せたもの)とチョコレートケーキで、王妃エリザベートの時代を回想して、一休みしたのも思い出に残っています。

今回も訪れて、王妃シシを回想してお茶とケーキを頂くのを楽しみにしています。

我々夫婦は、その街の市場に寄って、その土地のものを購入するのも好きで必ず市場に寄ります。

ペスト地区の繁華街「ヴァーツィ通り」の店を覗き込み散策して、その先にある中央市場へ行きました。中央市場は赤レンガの大きなドームの様な建物の中に、1階は肉、魚、野菜、果実、等の日常生活品の他に、特産品の各種パプリカが綺麗に包装して販売しているお店もあり、購入してお土産にしました。

2階は、衣料品、カバン、生活雑貨などのお店もあるが、一角にハンガリー料理のお惣菜を並べたお店もあり、好きな料理を購入してお店の前で食べられるスタイルになっていて、多数の人々が、食べ飲みしていた。店頭には美味しそうなハンガリー料理が沢山並んでいたが、混雑で席が無かったので、残念ながら我々は通り過ぎてしまいました。



最後に、路面電車(トラム)でのエピソードをひとつご披露します。

ブルシュマルティ広場の地下鉄の駅で、一日乗車券を購入して、トラムを乗り継いで名所巡りをしていた時に、突然、我々夫婦だけに検札がはいりました。

乗車券(チケット)を見せろと言うので、一日乗車券をポケットから取り出し、検札者に見せたら私のチケットを持って、少し離れた所に立っていた地元の若い女性三人連れの所へ行って、検札者が我々のチケットを見せて、何か説明していました。

その後、チケットは我々に戻されて何事も無く、トラムによる名所巡りは続けましたが、我々は無賃乗車と疑われて、若い女性三人連れから検察者に通報されたものと思われま。

我々は一日乗車券を購入した時に、日付と使用開始時間を記入して頂いたもので、乗車した時に車内の打刻機に近づく事も無く、地元の人と同じ様にしている観光客だったので、キップを持っていないと勘違いされたのでしょう。今も笑い話として知人、友人などに披露しています。

私は75歳(もうすぐ76歳)、妻は72歳、語学力弱い老夫婦がヨーロッパ旅行を楽しんでいるのは、日本語が通じる面白いお店が増えているからでもあります。

ドナウベントを見物した帰りに小さな町に立ち寄り、観光で街を歩いていましたら、お土産品店の女性に流暢な日本語で話しかけられ、日本の剣玉の様な、紐の付いた毛糸ボールを可愛い動物の顔が付いた毛糸のグローブが受け止める、お土産品を進められ、日本円が使え、日本円でお釣りを返すと言う、日本語を流暢に話す女性のお店で、グローブの様なおもちゃを自分のお土産に買いました。

その後、ホットワインのグラスを片手に、宵闇せまる小さな町のぶらぶら歩きを楽しみました。

